

# 攻めの走り貫く

## 田辺工業5人が区間賞

### 県高校駅伝

日高川町で3日にあった県高校駅伝男子の部で初優勝した田辺工業は、メンバー全員が初出場。攻める走り2位の和歌山北に3分44秒の差をつけた。男子で紀南の高校が優勝するのは初めてとこい。

最も距離が長い10キロの1区は、今夏のインターハイ5000メートルに出場した野村優作君(3年)が走った。序盤から飛び出してレースを引っ張り、速いペースで走り、自分のラストで後ろにびったり付いた和歌山北の選手に抜かれたが、6秒差の好タイムでたすきを渡した。「区間2位で悔しさはあるけど前半から速いペースで走り、自分の力を出し切った」と振り返った。



県高校駅伝で初優勝し、全国大会に出場する田辺工業

2区は、井瀬洸太君(2年)。「落ちて自分で自分の走りをしよつ」とたすきを受け取り、狙っていたという区間賞の快走でトップとの差を3秒差に縮めた。

3区の走者は、1500メートルで今夏のインターハイや10月の福井国体に5000メートルで出場した主将の都築勇貴君(3年)。たすきを受けてすぐに和歌山北を抜いてトップに立つとぐんぐん相手を引き離し、区間賞の快走で2位と1分30秒の差をつけた。

4区は、重石卓哉君(3年)が2位との差をさらに広げ、区間賞の走りなたすきを後輩に託した。「自信につながる走りがあった」と手応えを語った。

5区は、中山友哉君(2年)は2位との差をやや縮められたが力強い走りでもトップを守った。6区の水井翔哉君(2年)は区間賞の走りでも再びリードを広げた。中山君は「全国ではもっと調子を上げて自己ベストを更新したい」、水井君は「区間賞だったけどタイムはベストではない。この悔しさを全国で出したい」と、それぞれ抱負を語った。

7区は井瀬洸太君の双子の弟、翔太君(2年)が2位との差をさらに広げ、ガッツボ

1区でゴールした。区間賞も獲得し「1位で来てくれると信じていた。いろんな人が応援してくれたので、しんどい場面でも楽しむことができ

た」と喜びを語った。

控えメンバーの清水友登君(2年)と福本翔君(2年)もチームを支え、全員で目標の優勝を勝ち取った。

田辺工業の記録は次の通り。丸数字は区間順位。

- 1区(10キ) 野村優作② 30分9秒
- 2区(3キ) 井瀬洸太① 9分8秒
- 3区(8キ) 都築勇貴① 24分34秒
- 4区(8・0875キ) 重石卓哉① 25分13秒
- 5区(3キ) 中山友哉② 9分20秒
- 6区(5キ) 水井翔哉① 15分47秒
- 7区(5キ) 井瀬翔太① 15分27秒